

令和8年5月15日

報道機関各位

熊本大学

熊本大学キャンパスミュージアム企画展
「熊本地震から10年 そして、その先」開催のお知らせ

熊本地震から10年が経過した現在も、地震に関する調査研究は継続されています。今回の展示では、パネルやプロジェクションマッピングで解説し、益城町、西原村、南阿蘇村で採取された剥ぎ取り標本やボーリングコア試料、さらには、地下の断層の様子を示す断層岩など実物標本の展示をし、布田川断層の調査研究の成果を一部紹介します。

また、展示会場である五高記念館をはじめとする学内の重要文化財建造物も熊本地震によって、煉瓦壁体の亀裂など甚大な被害を受けました。その後の災害復旧工事では、被災した建造物の原形を維持しつつ、不可視部分へ構造補強を施すことで、建築当時の姿を保持させたまま復旧することができました。約5年にわたる災害復旧工事をもって完了した災害復旧工事の記録を後世に伝える資料として、「被災」と「復旧」というテーマに分けて紹介します。

さらに、“減災力”を高めることが、被害を最小限に抑え、復旧・復興が迅速に進む社会に必要です。「学びたい備えたい 熊本の防災・減災」と題して、防災・減災に関する調査・研究と技術開発、研究成果の社会への実装、多様な方々を対象とした防災・減災教育など、減災型社会の実現に向けた取り組みを紹介します。

なお、6月6日(土)には化学実験場階段教室にて講演会を開催します。熊本地震で得られた教訓を今後の防災・減災にどのように活かしていくかを考える機会となれば幸いです。

広く一般の方へお知らせいただくとともに、取材方よろしく願いいたします。

記

○展示

【期 間】 令和8年5月20日(水)～6月29日(月) 10:00～16:00

【場 所】 熊本大学五高記念館 2階展示室(熊本市中央区黒髪2丁目 40 番 1 号)

【休館日】 毎週火曜日

【入場料金】 無料

○講演会 ①「熊本地震を経て橋はどう変わったのか」

松村政秀 教授(くまもと水循環・減災研究教育センター)

②「熊本地震での地質災害からの教訓」

鳥井真之 特任准教授(くまもと水循環・減災研究教育センター)

【日 時】 令和8年6月6日(土) 14:00~16:00

【場 所】 熊本大学化学実験場(熊本市中央区黒髪2丁目40番1号)

【定 員】 50名程度(先着順)

【参加費】 無料

【申込方法】 要申込 <https://forms.gle/iUQsCxZqDp89iwUC8>

またはチラシに記載の QR コードよりお申し込みください。

詳しくは別紙チラシまたは各ホームページをご覧ください。

<https://museum.kumamoto-u.ac.jp/>

【お問い合わせ先】

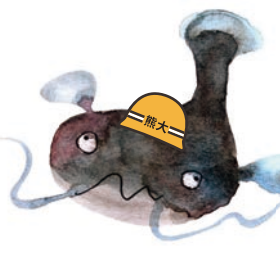
熊本大学キャンパスミュージアム推進機構

TEL:096-342-2864

MAIL:museum@jimu.kumamoto-u.ac.jp

熊本地震から10年 そして、その先

熊本大学キャンパスミュージアム企画展



断層は地層に
どのような情報を
追記するのか？



重要文化財
3棟災害復旧
工事報告

2026
5.20 水 → 6.29 月

[熊本大学黒髪北地区]

熊本大学五高記念館

2階展示室 大学生によるミニ解説を実施(不定期)

10:00 - 16:00 (入館は 15:30まで)

毎週火曜日休館 [入場無料]

講演会 会場：化学実験場 階段教室

6.6 土 14:00-16:00

【講演①】熊本地震を経て橋はどうか変わったのか 松村政秀 教授

【講演②】熊本地震での地質災害からの教訓 鳥井真之 特任准教授

参加無料 | 定員50名

QRコードからお申し込みください。→



学びたい備えたい
熊本の
防災・減災

- ① 第一白川橋りょう
- ② 旧阿蘇大橋
- ③ 南阿蘇村下野
- ④ 五高記念館
- ⑤ 五高記念館
- ⑥ 工学部研究資料館
- ⑦ 化学実験場
- ⑧ 阿蘇長陽大橋



主催：熊本大学 キャンパスミュージアム推進機構
熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター
熊本大学 工学部、熊本大学 理学部
後援：熊本日日新聞社・熊本県博物館ネットワークセンター

熊本大学キャンパスミュージアム推進機構
〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目39番1号
TEL：096-342-2864
(社会共創推進室 TEL：096-342-2047)
e-mail：museum@jimu.kumamoto-u.ac.jp

そして、その先 熊本地震から10年

熊本大学キャンパスミュージアム企画展

講演会 会場：化学実験場 階段教室

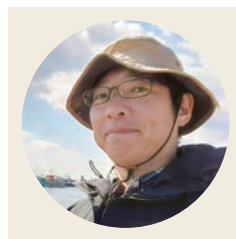
6.6 14:00-16:00

講演
①

「熊本地震を経て橋はどうか変わったのか」

松村政秀 教授
くまもと水循環・減災研究教育センター

熊本地震では、多くの橋が被害を受けました。見た目は同じようでも、現在の橋には、地震の揺れを逃したり落橋させない仕組みなど、早期復旧や災害防止に向けた工夫が取り入れられています。熊本地震の教訓は、「壊れにくく、壊れても致命的にならない橋」への進化につながっています。



講演
②

「熊本地震での地質災害からの教訓」

鳥井真之 特任准教授
くまもと水循環・減災研究教育センター

熊本地震では阿蘇カルデラ周辺で多くの斜面災害が発生しましたが、カルデラ壁の崩壊と後カルデラ火山群の崩壊ではメカニズムが異なることがわかってきました。これは活断層型地震が火山周辺地域に与える地質災害として教訓となるもので、それをどのように活かすかを考えます。



新緑の五高記念館



講演会はコチラから
申し込んでね!

参加無料 | 定員50名

QRコードからお申し込みください。➡



講演会申込サイト

展示概要

会場：五高記念館 2階展示室

※大学生によるミニ解説を実施(不定期)

2016年熊本地震から10年が経ちましたが、この熊本地震を起こした布田川断層の調査研究は現在も進行中です。今回の展示では、おもに地球科学の側面から、熊本地震発生前から現在までの研究を、調査時に採取した断層の剥ぎ取り標本やボーリングコア試料の展示、そして、パネルやプロジェクションマッピングなどにより紹介し、活断層の理解と地震への備え方を共に考えます。 ※ミニ解説あり

熊本地震により甚大な被害を受けた五高記念館は、やむなく休館し2017年2月より災害復旧に着手しました。約5年の歳月をかけ「表門」、「化学実験場」、「本館」、「旧機械実験場」の復旧が順次完成。災害復旧工事では、被災した建造物の原形を維持しつつ、構造補強を施し建築当時の姿を保持させたまま復旧することができました。今回は「被災」と「復旧」というテーマに分けてその過程をご覧いただけます。

熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター[減災型社会システム部門]
“減災力”を高めることが、被害を最小限に抑え、復旧・復興が迅速に進む社会に必要です。「学びたい備えたい 熊本の防災・減災」と題して、防災・減災に関する調査・研究と技術開発、研究成果の社会への実装、多様な方々を対象とした防災・減災教育など、減災型社会の実現に向けた取り組みを紹介します。

黒髪北地区

講演会場(階段教室)



化学実験場[重要文化財/限定公開]



※駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。

熊本大学キャンパスミュージアム推進機構
〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目39番1号
TEL: 096-342-2864
(社会共創推進室 TEL: 096-342-2047)
e-mail: museum@jimmu.kumamoto-u.ac.jp
https://museum.kumamoto-u.ac.jp/



Webサイト